

2015年(平成27年)2月5日(木曜日)

デンソー製の部品を親しみやすく表現した
名古屋学芸大生の作品が並ぶ産学協同展—
名古屋・栄のセントラルパーク地下街で



かたい部品を やわらかく

自動車は多くの部品メーカーの技術・製品で支えられているが、国内最大手のデンソー(愛知県刈谷市)ですら何をつくっているのか、あまり知られていないのが実情だ。そこで、デンソーの力で製品を分かりやすく表現し、企業イメージをアップしようと、名古屋学芸大(同県日進市)とデンソーの産学協同展「わくわくの種展」が名古屋・栄のセントラルパーク地下街で開かれている。8日まで。

エンジンを始動させる「スターター」は瞬発力のあるディーゼル、高圧噴射でガソリンを完全燃焼し、大気汚染物質を減らす「インジェクター」は墨を噴くタコ。石川理穂さん(20)は部品の特徴を愛らしい動物のイラストにした。「部品はかたくて難しそう。やわらかく表現すれば

デンソー 学生デザインの協同展

印象に残ると考えた」デンソー製品は車部品だけではなく、産業用ロボットは、人間の腕のような滑らかな動きに映像を重ねてアート作品に仕上げた。

このイベントのきっかけは、デンソーが女性採用を増やそうと学芸大で企業説明会を開いたこと。メディア造形学部デザイン学科の梶田涉教授が「実社会で役立つデザインを勉強させた」と協同企画を提案。広告やホームページのデザインを学ぶ3年生の女性八人が昨年八月からエンジンアへのインタビュアーや工場見学を重ね、構想を練った。リーダーの山本愛佳さん(20)は「部品一つ一つに環境や安全へのこだわりがあると知った。緑の下の力持ちにスポットを当てようと考えた」と話した。